

# 届け、私の思い。

7月5日、函南町文化センターで行われた青少年健全育成大会に、町内の小学校5校、中学校2校、高校1校の計8校の代表者が主張発表を行いました。主張の内容を紹介します。

問合せ／生涯学習課 (979-1733)

特集  
青少年健全育成大会  
2015.7.5



函南小学校6年  
とみた いお 富田 伊緒さん

## 「笑顔と言葉の力」

私は6年生になり1年生とペアになりました。1年生との顔合わせの日、ペアの子はとても緊張していて私もつられて緊張してしまい最初は何も話せませんでした。しかし、思い切って話しかけると1年生が笑顔になり少しだけ話げができました。

この体験を通して、自分から話しかけることや優しく接することで仲良くなれるとわかりました。

以前、私が落ち込んだ時に優しい言葉を言われてとてもうれしかったことがあります。このように相手を思いやるのが言葉に表れるのだと思います。この他に相手を思いやることは態度でも表せます。時には厳しい言葉をかけた方がよいこともありません。私は1年生の朝の支度を手伝う時、自分でできないことだけを手伝い、いつもより早く支度が終わると褒めるようにしていました。私も母や祖母に厳しい言葉をかけられたことがあります、それは私のことを考えて言っているのだと思います。

私は1年生との体験を通して、笑顔や優しさ、言葉の大きな力について感じるようになりました。自分の身の周りを改めて見てみると、いつも優しく笑顔で接してくれる人たちがたくさんいました。私もこれからも周りに優しく明るい笑顔で接していきたいです。



丹那小学校6年  
やぎ りょうすけ 八木 涼亮さん

## 「バトンを受け継いで」

丹那小では毎年6年生がリーダーになり、班のメンバーと山頂を目指す玄岳遠足が行われます。班をまとめる仕事はとても大変でしたが、無事に玄岳に到着することができました。その経験から僕は歴代の先輩たちの今までの苦勞を感じ、これでバトンを受け取れたと思いました。

僕は毎日のお昼に「今日は何の日ニュース」と「Yニュース2」というコーナーを放送しています。

「今日は何の日ニュース」では、毎日今日は何の日かを調べて放送します。大変ですが明日が何の日か興味湧くようになりました。下級生から「明日は何の日」。などと聞かれるとうれしいです。

「Yニュース」は2年前の先輩が始め、昨年は「Jニュース」で、今年は僕が「八木のY」をとって「Yニュース2」として引き継ぎました。「Yニュース2」は自分で話題になりそうなことを探したり、丹那小の出来事を各学年に聞きにいたり大変です。このニュースが丹那小のみんなのやる気を引き出し、つながりを強めるきっかけになれば、僕は先輩たちのバトンを受け取ったと言えると思います。

僕は先輩たちから受け取った伝統のバトンを次の学年に渡せるように「Yニュース2」で丹那小を活性化していきたいです。



桑村小学校6年  
おおの ひびき 大野 響樹さん

## 「地域の力に支えられて」

今年も僕は原生林探検に行きました。その帰りに学校林にも立ち寄りしました。学校林に着くと、そこは普通の林で大切なものだという実感はあまり湧きませんでした。

数日後、昔から桑村地区に住んでいる菅沼さんに、学校林について話を伺う機会がありました。学校林は学校のために使う材木やお金を作るための林で、今の木は60年位前に地域の方が300人くらいで頑張つて植えてくれたそうです。また、昔の桑村小学校にはプールがなかったで、親や地域の人たちが学校林の木を切り、お金に代えてプールを作ったそうです。僕は昔から地域の人たちが桑村小学校を大切に思ってくれていたのだと感じました。

冬の桑村小学校の桜の木の剪定作業に参加したとき、作業に参加する人たちの中には、学校の桜を守りたいと毎年作業に参加してくださる人もいました。

これらの事を通して、僕は桑村小が地域の方の手で支えられていることに気がつきました。豊かな自然と共に地域の人たちのつながりや絆も僕たちの誇りです。僕もこれからはもっと積極的に桜の剪定作業や奉仕作業に参加したいです。そして、自慢の桑村小学校、桑村地区の良さをもっと皆さんに伝えていきたいです。



東小学校6年  
いわさき あかね 岩崎 茜さん

## 「おさがりについて考える」

私には姉と妹がいます。姉妹がいるとうれしいことがたくさんありますが、あまりうれしくないことでもあります。それは「おさがり」です。私が保育園の頃、何年か前のアニメキャラクターがプリントされたおさがりの洋服と友達に着ている洋服を比べて、悲しくなったことがあります。

しかし、おさがりは悪いことばかりではありません。例えば、新しい服を買う前におさがりを着て、どのような服が着やすいか、どのような色が似合うかなど試すことができます。

私にとっておさがりは苦い思い出もありますが、物を最後まで大切に使うという非常に良いことだと思います。そこで、私はおさがりをもっと広い範囲で活用できないかと考えました。例えば、小学校で不要になった体育着・辞書・本・カラー帽子などを回収して兄弟姉妹だけでなく、仲間同士で活用したり、ふれあいまつりやフリーマーケットのような場所でおさがりの物を購入する機会を増やしたりすれば環境のためにもいいと思います。

物を最後まで大切に使うという思いからきているおさがり。これから私も自分の物を大事に使い、それを使っていた時の思い出とともに、おさがりの良さを皆に伝えていきたいです。



西小学校6年  
あらかき ゆうき 荒木 優希さん

## 「わたしの目標」

私は今年、西小の最上級生になりました。

私には「学校をこうしたい」という目標があります。1つ目は「当たり前のことができるように」。です。当たり前のことができるように私たちがお手本を示したいです。2つ目は「毎日笑顔で楽しく正しく」。です。少

し前の事ですが、私のクラスで皆に迷惑な行動をする人がいて注意しようと思いましたが、怖くて誰も止められませんでした。仲良く生活していくためには思うだけではダメです。目標の実現のために行動で表したいです。

3つ目は「人を傷つけてはいけない」。です。傷つけられるととても悲しくて嫌な気持ちになります。人を傷つけないためには、相手の立場に立ち、いつも相手の気持ちを考えることが必要です。

最上級生になった今年、私は人を傷つけることではなく、自分がされて嬉しいことを相手にしてあげたいです。そして、周囲の6年生もこんな人間になりたいという目標を持ち、その実現に向けて努力をすれば傷つく人が減り、もっと学校が楽しくなると思います。自分の目標を実現のため努力を続けたいです。

※各発表者の文章は、主張の主な内容を要約して掲載しています。